



第五次地域農業振興計画

自 令和6年度 ~ 至 令和8年度



地域農業の担い手とともに
活気・魅力あふれる農業の実践

J A つがる に し き た

「第五次地域農業振興計画書」刊行にあたり

つがるにしきた農業協同組合
代表理事組合長 山中 満春



組合員・地域の皆様には、日頃より農協事業の運営につきまして、特段のご支援ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、世界に目を向けますと、ロシアのウクライナ侵攻、イスラエル・パレスチナの武力衝突など国際情勢は大変不安定な状況で、国内の農業生産現場では、慢性的な労働力不足に加え、資源高や円安などにより生産資材価格の高騰が続いています。一方で農畜産物への価格転嫁は一向に進んでおらず、横ばいの状況が今もなお続き、農業経営は益々厳しさに拍車がかかり、離農者の増加や担い手不足による耕作面積の減少が懸念されています。また、近年は地球温暖化の影響で管内も異常気象の発生が非常に多く、令和4年8月の豪雨災害では約33億円とかつて経験したことがない甚大な被害を受け、令和5年も猛暑の影響により米の白未熟粒の発生が多く、1等米比率は5割を割り込むなど、丹精込めて育てた農産物が収穫できなかつたり、著しく品質が低下したりするなど、組合員にとっては非常に厳しい年が続いていますが、今年こそは豊穰の一年になりますよう切に願っております。

このような情勢の中、農協の主力であります米の販売環境は経済の再開により、外食や中食などの需要が回復したことや、主食用米の生産が抑制されたことにより米価は回復傾向となっています。また、令和6年産が本格的な販売になる新品種「はれわたり」は、県産米としてはこれまで少なかった「甘いもちもち食感」と「口福」という豊かな味わいを売りに「つがるロマン」を引き継ぐ代替品種として生産者の期待が高まっており、令和6年産は管内約970㍏の耕作を予定しております。今後は業務用米として人気のある農協主力品種「まっしぐら」、ブランド米として定着した「青天の霹靂」、この3品種を中心に需給にあったバランスの取れた作付け構成に産地をあげて取り組み、産地銘柄米として息の長い品種を育て消費者から指名される産地になることが、生産者・農協の使命であると考えています。

「第五次地域農業振興計画」では、地域農業の担い手とともに活気・魅力あふれる農業の実践を営農ビジョンに掲げ「再生産可能な農業所得の確保」「担い手の育成と経営基盤の強化」「産地の維持と拡大を目指す事業展開」の3つを基本方針として計画書を作成しました。今後は組合員の皆様から頂戴した要望を真摯に受け止め計画に取り組み、別に定める「第五次地域農業振興計画に係る支援策」を大いに活用してもらいながら、組合員と農協が一丸となって取り組むことで、地域に活気生まれ魅力あふれる農業の姿が実現できることを切に願い、刊行にあたっての挨拶とさせていただきます。

令和6年1月

目 次

J Aつがるにしきたの概要	1 P
第四次地域農業振興計画を振り返って	2～4 P
組合員意向調査結果	5～7 P
現状と10年後シミュレーション	8～9 P
第五次地域農業振興計画 営農ビジョン	10 P
地域農業振興計画 基本方針	11 P
1. 再生産可能な農業所得の確保	11 P
2. 担い手の育成と経営基盤の強化	12 P
3. 産地の維持と拡大を目指す事業展開	13 P
振興作物	13 P
組合員所得向上に向けたJ A支援体制（フロー図）	14 P
品目別農業振興方針	
米穀・畜産部門	15～16 P
やさい・花き部門	17～20 P
りんご部門	21～22 P
果実部門	23～25 P
支店別地域農業振興方針	
つがる白神支店	26 P
深浦事業所	27 P
つがる支店	28 P
富蒔事業所	29 P
鶴翔支店	30 P
津軽北部支店	31 P
令和8年度作物別目標	32 P
作物別経営試算表	33 P
作物別労働時間	34～37 P